



刈谷市美術館は衣浦東部広域行政圏における美術文化の拠点としての使命を持ち収蔵品を持たない地域住民に開かれた美術館として歩んできた。

そして、この美術館の特徴を最も端的に表しているのがこの衣浦東部美術展である。

昭和58年6月刈谷市美術館開館記念として開催された郷土作家百人展が第2回より衣浦東部美術展と名称を変え今回第3回を迎えた。

衣浦東部広域行政圏に位置する碧南・安城・知立・高浜・刈谷の5市教育委員会から推薦を受けた郷土で活躍中の作家約100人が各1点出品している。

作品は日本画・洋画・書・写真・彫刻・工芸の各部門に渡り、質の高い美術展の開催を通して衣浦東部地域の文化の高揚を目ざすべく作家と行政が手を携えての美術展となっている。また、日本画・洋画では100号を基準とするなど大作主義をとっており、加えて回を追うごとの作品の充実ぶりには目を見張るものがあり、観覧者にも大変好評となっている。

目 次

●昭和60年度愛知県博物館協会総会報告	2
●昭和60年度東海博総会に出席して	3
●新加盟館紹介	4

昭和60年度 愛知県博物館協会総会報告

昭和60年度愛知県博物館協会総会が、5月24日稲沢市稲沢の稲沢市保険センターで開催されましたので、下記の通り御報告致します。

会長挨拶……愛知県陶磁資料館（館長）
開催館挨拶……稲沢市橋本教育長
来賓………県教委文化財課三宅（代理）
表彰………久住前名古屋博物館副館長
峰前陶磁資料館主査（協会事務局）

新規加盟館 名古屋海洋博物館（59年度中途）
武豊町歴史民俗資料館（60年度）

議題 (1)昭和59年度事業報告
昭和59年度決算（監査報告昭和美術館）
(2)昭和60年度事業計画
昭和60年度予算
以上2件事務局より説明、承認される。



討論会「愛博協を語ろう'85」

座長広瀬実行委員を中心として、愛博協の現状を11名の実行委員が各自説明し、加盟館の意見を聞く方向で行なわれた。以下その概要を記します。

協会組織における部門研究会の内、歴史民俗系博物館研究会の現状について浅田実行委員より、愛博協加盟館における歴史民俗系博物館の現状についての指摘があり、系列館が多い割には、人的・経済的にはあまり恵まれない中で横の連携を深めた共同企画等の研究も企画できるような研究会にしたい旨の発言があった。昨年実施の見晴台考古資料館よりは、市民参加のセミナーに合わせた形での開催であった為、意義ある研究会であったとの報告を受けた。

さらに浅田委員より、研究会の内容に関しては、協会の担当者が決めるのではなく、部会館の要望と、開催館でどのような内容の研究を必要としているかを知り、開催館に意義ある研究会となる事を望んでおり、開催の希望館を待っているとの事であった。

次に美術部門の研究会について服部委員より、今までの開催回数が少なかった為に、美術部門研究会の内容について加盟館の要望が今一つ判然としないところもあり、協会主催の研究会等に多く出席を願い、広い意味での研修会を実施して、美術部門としての研究会の課題を探ってみたいとの事であった。

以上二部門の研究会については、加盟各館と担当者及事務局とのコミュニケーションが今一つ密接でない事は、担当者自身も自覚している様に思われるが、この点についても岩田洗心館より、情報交換が、理事館（実行委員）との間に少い様に思うし、今後部会開催についても参加者が増加しないのではないかと指摘を受けた。

情報交換の話題にともない、協会の広報活動について山田委員より現状と、問題点について説明があり、協会誌「愛知の博物館」年3回発刊が事後報告誌にならぬ様1回は加盟各館の調査研究成課発表の場としたい考えである事、又月刊誌「東西南北」は広く加盟館が利用できる場としたい旨の報告があった。



次に博物館自体における情報処理の件について、学芸懇談会に於いても話題になっており、発起人でもある三輪委員より、その状況説明等があったが、各館園における情報処理問題から協会組織におけるデータ処理問題が現在大きな話題である様で、これはむしろ大規模館が館自体の情報処理に努力中であるに対し、小規模館は、館自体の情報処理が比較的少い為に、むしろ外部の情報を自館に活用する為の館外情報を必要としているのかも知れない。この点加盟各館の情報交換は、大規模館よりも、むしろ小規模館へのメリットが大きいのかも知れない。

さらに坂下委員より、加盟各館の情報交換について、いつも問題になるのが、データベースの事であるが、特に活字資料に関しては、図書館の運営は参考になると思うし、博物館相互においても、例えば「郷土資料」的なものなど、各館に共通性のある情報交換処理を実施していけば可能ではないかとの指

摘があった。

後藤委員より、先の研究会等についてもブロックごとの研究会制度を考えても、加盟館の増加で、ある程度の成果は得られるのではないだろうか、との指摘があった。

参加各館からも研究会実施及び情報交換等についても質問もあったが、やはり、比較的新しい館園では、自館にとっての博物館機能を如何に進めるか、多くの人々に意見求めたいのが本音の様であったと思う。この度協会の研究会等各種の催事は、これら比較的新しい館園で実施し、加盟各館園の有能な人々の意見を聞ける場にしたいものである。数年来、この種の総会・研究会は比較的新しい館に無理をお願いし、引受けていただいている訳であるが、会場館になった博物館は其の後確実に協会運営にも関心を持っていた結果ともなり、又館自体の運営にも積極性のある運営がなされている様に思うのは私一人ではない様に思う。(山田記)



昭和60年度 東海博総会に出席して

伊藤 正人

今年度の東海地区博物館連絡協議会総会は、神奈川県博物館協会が担当して、5月29日に開催された。横須賀市自然人文博物館を会場として、午前中に理事会、午後から総会及び討論会が開かれ、夕刻からは隣接する文化会館内にある横須賀市長迎賓室において懇親会が催された。翌30日は見学会にあてられ、横須賀市自然人文博物館、記念艦三笠、油壺マリンパークの順に、三浦半島の車窓風景を楽しみつつバスで巡った。午後4時前、国鉄逗子駅にて解散、全日程を無事終了した。以上の日程の全部あるいは一部に、愛知県からは11施設の15人が参加した。以下、この日程に沿っての私的な感想を連ねて、参加の報告とさせていただきます。

29日は、横浜駅にて愛知県からの参加者のうち約半数の方々と合流できた。こうした会合への参加及び愛博協関係の方々との顔合わせが初めてという私

にとっては、心強い限りであった。さて、その方々と共に総会会場に着き、会場をひとわり見渡しての漠然とした印象、「愛博協は、活気があって陽気である。」もちろん私にとって好ましい印象である。しかし、肝心の総会、討論会の方は、あまり好ましいものとはいえなかった。総会が、あいさつと確認事項の議事のみとなるのは已むを得ない面もあるが、討論会は「各県博物館協会の現況と課題—運営や活動はいかにあるべきか—」という立派なテーマを据えながら、おそらくは各県博協の活動内容・基盤の相違を原因として基調報告がテーマを具現化し得ず、よって討論が成り立たないといういささかちぐはぐなものであった。事前の準備・調整の困難さはわかるが、せっかくの集会を生かすためには、より実態に即したそれなりの統一的成果をまとめ得る企画とすべきではないだろうか。などといったことを、眠気を催す頭でぼんやり考えている間に、討論会は予定より1時間早く終了、懇親会へと望んだ。

ここでも愛博協のメンバー（の一部としておくべきであろう）は、活気にあふれていたといえる。我々によってほぼ占められた立食式の1テーブルは、最も早く且つきれいに器が原状復帰し、また何故か（これはお近づきになった横須賀の方々の尽力にもよるが）、他のテーブルからの器の移動も活発であった。同夜の宿は、私を含めて愛知県からの10人が同宿となった。二次会もはなやかに盛り上がり、そここでなかなか真面目な議論も戦わされた。また、由緒正しいらしいその宿の細工や装飾等への着眼点・観点は、さすがに博物館人の寄り集まりらしく感心させられたものである。

30日は、横須賀市自然人文博物館へ集合、整理・収蔵スペースを中心に見学を行った。いずれも同じ、既設の自然棟は収蔵スペースは満杯の状態、昨年新設された人文棟は当然余裕があるものの、さて何年分の余裕であろうか。現在、県下随一とのことであるが、ずいぶん細かく見せていただきなかなか興味深い点も多かったが、残念ながらそうした諸点についてつこんだ議論がなされる時間的余裕はなかった。自然・人文両部門の関係、新設施設・設備の使い勝手、コンピューター導入の具体的計画など詳しく知りたい点は多かったのであるが。

続いて記念艦三笠を見学した。船体そのものが館であり展示物である点、船室・船倉を利用した展示例という点でコースに組まれたのかと考えていたが、少なくとも受け入れ側ではそうではなかったらしい。映画「海ゆかば」短縮版を見せていただき、東郷元帥ゆかりの展示品・船室を案内していただいた。パンザイであった。

油壺マリンパークは、わりとゆっくり見ることができた。水族の展示といういささか特殊な部門では

あるが、入館者にわかりやすく見せるための工夫、その発想は同じであり、さまざまな努力がなされていた。イルカとアシカのショーを見せていただいたが、司会はプロの役者、ぬいぐるみがアシスタント、シンクロナイズドスイミングありと楽しく派手な構成であった。観光中心の施設ではあるが、これももちろん動物の能力を見せることを目的とした展示である。お堅い講演会が一般的な当館に、何か学ぶべき点はないだろうかと考えたりしている。

多くの方々との交流、東海博活動の把握、自分の興味に促されない見学等、この冗長な文章に表わせたかはともかく参加の成果は挙げ得ると思う。帰りの新幹線食堂指定席での交流も、旨く楽しいものであった。

(名古屋市見晴台考古資料館学芸員)



新加盟館紹介

武豊町歴史民俗資料館

所在地：〒470-23 知多郡武豊町字山ノ神20-1

☎0569)73-4100

交通：名鉄河和線知多武豊駅下車徒歩10分

名鉄河和線知多上ヶ駅下車徒歩5分

国鉄武豊線武豊駅下車徒歩15分

沿革：急速な都市化に伴い失われゆく民俗資料の保存施設として、半田高校武豊分校の本造校舎に、農具を中心とした収集・保管をしてきた。これらの活用を計るため、新に歴史民俗資料館が建設されるはこびになった。なお旧木造校舎は移築、改装をして資料庫として利用している。

設立：昭和59年6月15日起工

昭和60年3月20日竣工

施設：敷地1,646㎡

建物／鉄筋コンクリート2階建・展示室249㎡

収蔵庫148㎡・管理室・荷解工作室・くんじ

ょう室・文化財資料庫

開館：9:00～16:30

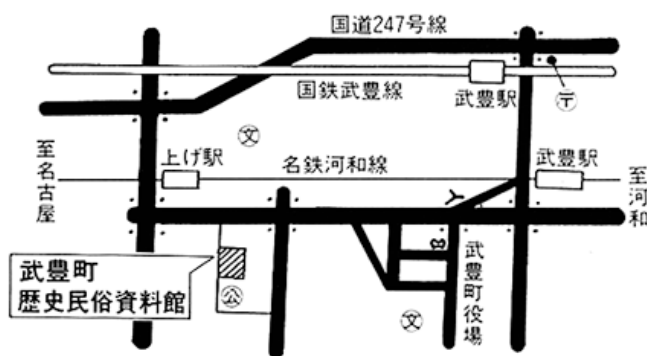
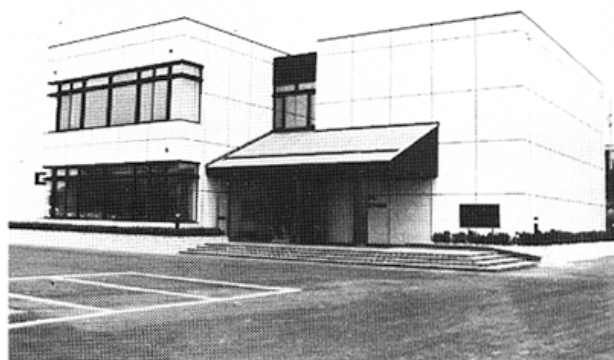
休館日／月曜日・祝日・12月28日～1月4日

入場料：無料

◎特色

一階展示室 商工史のコーナー 伝統産業の味噌・溜業、鍛冶屋、紺屋、石屋、下駄屋を紹介した。また、武豊町が工業の町として栄える過程を船かせぎ、港、鉄道などをとおして説明している。

二階展示室 考古のコーナー 山崎古墳の遺物や知多半島古窯の出土資料を系統的に展示している。農業のコーナーでは、開拓、養蚕、農具を展示している。



「愛知の博物館」No.39

発行日 昭和60年7月1日

編集・発行 愛知県博物館協会

〒489 愛知県瀬戸市南山口町234番地

愛知県陶磁資料館内

☎0561) 84-7474